

仕事もいろいろ、一〇Bの手記

奥田 宏健(岡山理科大学専門学校部長：岡山県職〇B)

岡山県を退職して早4年になります。現在、学校法人加計学園で教鞭をとっており、加計学園での赴任先は岡山理科大学専門学校であります。毎朝、「おはようございます」の若い女子学生の挨拶で始まる。この朝の挨拶を聞くと、今日も何とか頑張らねばと思う。この職域は先輩〇Bの方の少ない職場でもあり、赴任先の学校内容を少々紹介させていただきます。

この学校は建築士養成の建築系学科を前身に、6年前から動物系学科が設立され、現在学生数430名余が在学しております。現在は動物系学科の学生が圧倒的に多く、動物看護師養成の動物看護学科、ドクトレーナー養成のドクトレーニング学科、トリマー養成のトリミング学科、それに、水族館等水産系技術者養成のアクアリウム学科が設置されております。各学科とも現在の学制では2年制であり、その上に研究科が併設されております。

小生は動物系学科の部長で看護学科長を兼任しており、毎日講義や学生対応に追われている。小生が直接関わりを持っている看護学科についてみますと、この学科の学生は110名余で、小生は看護学科2年のクラスチューターで学生65名を抱えております。男子学生は1割で殆どは女子学生となっており、学生の出身県では岡山県内の学生は少なく60～70%は県外生で、遠く熊本県や東京周辺からも来ております。そして、学生層は大学進学高校、職業高校等を中心に、なかには、既に4年生大学の卒業者や社会人からの学生、他大学や他の学科からの再入学者など多彩な学生層となっている。多くの学生はそれぞれの専門性を身につける目的を持って入学してきているようです。

次にカリキュラムでは、動物看護学科は一般教養5科目、専門科目22科目、実習教科11科目と結構多い。これらの講義を市内の開業の獣医師、理科大学、倉敷芸科大学、学科専門技術教員で授業をしております。小生の担当科目は公衆衛生学、

動物病理学、解剖生理学、病理学実習、動物看護師認定試験対策及び動物飼育管理学等であります。そして、講義科目及び実習科目は1駒授業が90分と少々長い。通常の1日の授業は4駒と朝から晩まで詰め込み教育になっており、授業について行けない学生もかなり居ます。また、学生の能力差も大きく、どの辺りの学生を対象に授業をするのかは教員の課題となります。マイク授業も多く学生には大変なようです。進学希望学生は倉敷芸術科学大学や関連大学・学科の3年生に編入でき、単位の互換をするために科目数や単位数の減少はかなり難しいようです。

次に、学生気風をみますと、最近はあまり無茶な学生は目に付かない。品行方正？な素直な学生が多いようです。お化粧が濃いめだったり、服装が華やかな学生等いろいろありますが、若い学生達であり特に問題はない。ここの学生を見る限り、多くの学生は問題意識を持ち、一般に言われる軽いのりではないようです。今も昔も変わらずか？意欲のある学生は前に席を取り、中程から後ろは寝ているか、他の学科を学習している、あるいは漫画をみている。だが、前期末、後期末試験時には本気になる。欠時1/3及び60点以下は単位認定無しで原級留置・進級無しとなり、該当学生が毎年何人かあります。

看護学科の卒業状況では、殆どの学生は所定の単位を取得し、卒業研究を終了して、さらに、外部の看護師認定試験に合格して卒業します。研究課題では、本校が人と動物の共生社会を目指しているためか、動物の命と環境問題をテーマにする学生が多いようです。そして殆どの学生は動物病院や動物に関わる職場に就職していきませんが、最近では農業共済連や乳業メーカー、動物愛護団体、老人ホーム、一般企業等に就職しており、職域がしだいに拡大しております。今後、動物看護師は制度化、即ち法制化が取り上げられており、近く、動物看護師の公的試験や国家試験が予定されており、目的意識のない学生は取り残されていくよう

です。今後、本校もCT、MRI等高等医療の専門性を持つ動物看護師や、臨床検査等のパラメディカル分野で活躍でき、動物介在活動の出来る人材の養成が課題となっており、教育年限の延長が取りざたされてきております。

終わりに、取り留めのない手記になりましたが、OB生活、忙しくなる一方の今日この頃であります。小生も良い年齢になりました。一途に勉強

して指導を求めてくる若い学生を相手に、老骨にむち打っておりますが、最近特に気になるのは、授業料延納・分納希望及び滞納の学生が多いこと、授業料が払えず退学する学生が目につくことです。教育現場とて世の中の景気に左右されてきているのも現実の問題ですが、若い学生たちにより良い未来があることを祈念するこの頃です。